



Consolato Generale d'Italia
Osaka



演劇公演

ピノッキオ 操り人形の物語

カルロ・コッローディ作

監督・俳優: マッシミリアーノ・フィナッツェール・フローリー

チェロによる序曲: ユリコ・ミカミ

振付: ミケーラ・ルチェンティ

踊り: グエンダリーナ・ディ・マルコ マルタ・ルッキーニ

音楽: ニーノ・ロータ フィオレンツォ・カルピ

衣装: サルトリア・ブランカート・ミラノ

イタリア語による上演、日本語字幕

上演時間 90 分間 (幕間なし)

入場無料

インフォメーション: www.finazzeflory.com

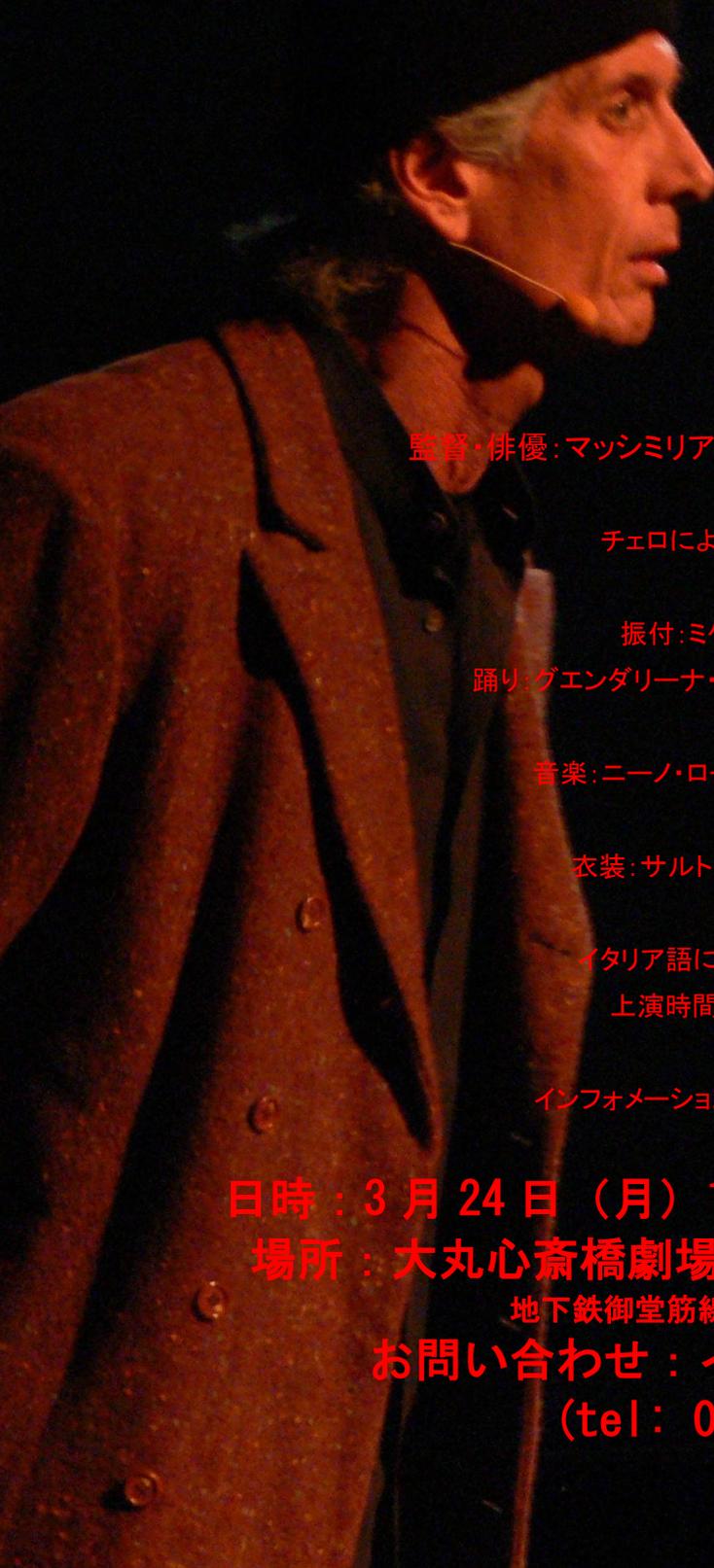
日時: 3月24日(月) 18時開演 (開場 17時30分)

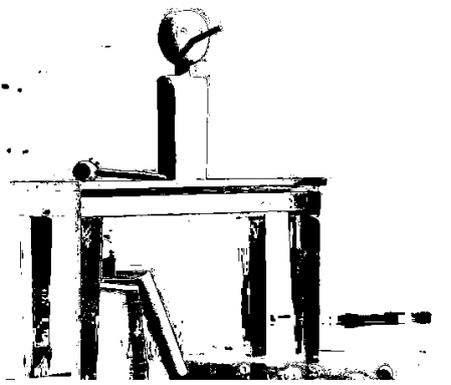
場所: 大丸心齋橋劇場 (大丸心齋橋店 北館 14階)

地下鉄御堂筋線心齋橋駅より地下道直結

お問い合わせ: イタリア文化会館-大阪

(tel: 06-6229-0066)





イタリアの俳優兼監督マッシミリアーノ・フィナツェール・フローリーが、世界で最も良く知られた童話のひとつであるカルロ・コッローディ作「ピノッキオ」を独自の芸術手法で解釈する。フィナツェール・フローリーがモノローグで登場人物に声を与え、踊り手たちが身体を使って物語を表現する、文学・演劇・舞踏・音楽を融合させた作品。

～出演者略歴～

マッシミリアーノ・フィナツェール・フローリー (Massimiliano FINAZZER FLORY)

1964年、フリウリ・ヴェネツィア・ジュリア州モンファルコーネ生まれ。ミラノを中心に活動する俳優、監督。文学、哲学、芸術、音楽を融合させた舞台を得意としている。

2008年から2010年まで、ミラノ市文化担当評議員を務めた。

グエンダリーナ・ディ・マルコ (Guendalina DI MARCO)

ロンドン・コンテンポラリーダンススクール”The Place”を奨学生として卒業後、ジェノヴァ大学修士課程修了(外国語専攻)。イタリアの著名劇場で、オペラのバックダンサーを経験したのち、ジェノヴァのダンスカンパニー”Ubidanza”のプロデュースに携わる。2013年、ソロのダンス公演”Solo in coppia”が、ジェノヴァの芸術祭”Festival Corpi Urbani”で表彰される。

マルタ・ルッキーニ (Marta LUCCHINI)

イタリアとオランダで現代舞踊を学ぶ。ポローニャ大学芸術音楽演劇学部 DAMS 卒業後、ミケーレ・アッボンダンツァ氏やアントネッラ・ベルトーニ氏といった振付師とコラボ。2008年、イタリアの現代舞踏家チンツィア・ディ・ロレンツィ氏と、ダンスカンパニーを設立。

ユリコ・ミカミ (Yuriko MIKAMI)

東京藝術大学卒業後(チェロ専攻)、仏パリのエコールノルマル音楽院に留学、1997年に「コンサーティスト」の高等課程を修了。東京藝術大学より「安宅賞」授与。現在は、オーケストラに加え、ソリストとしても活動。東京文化会館にて、ロベルト・カッチャパーリア氏(イタリア人ピアノ奏者)と共演した他、ミラノをはじめイタリア国内でソロ・コンサートも開催している。